

■佐双左仲 海軍造船技術者。日本造船官の第1号。造船技術を無から欧米に比肩するまでに高め、諸艦を設計建造。

さそうさちゅう

万次郎帰国・1852＝ 加賀国金沢で、金沢藩士堀尾治郎兵衛の子に生まれ、

ペリー来航・1853＝ 1歳： のち佐双久右衛門の嗣となる。

桜田門外変・1860＝ 8歳：

遣欧使節・1861＝ 9歳：

明治維新・1868＝16歳：

海軍兵学寮に入学、

初の日刊新聞1870＝18歳：

廃藩置県・1871＝19歳：成績優秀として英国留学となる(東郷平八郎と同行した技術官予定者4人中の1人)。

明治6年政変 1873＝21歳：

イギリスでは、元海軍造船局長兼軍艦設計主任であった近世軍艦設計の逸才エドワード＝リードの門弟となり、造船学、特に設計法を学び、明治政府が外国に発注した扶桑・金剛・比叟(いずれも初代)3艦の建造をリード、

大久保暗殺・1878＝26歳：

*全艦完成により、東郷とともに比叟に乗艦して帰国した。以後、赤松則良の指導下にあって、

沖縄県編入・1879＝27歳：

海軍省主船局造船課長の要職に少匠司として就き、

明治14年政変1881＝29歳：

この間、イギリスへ発注した巡洋艦浪速・高千穂の監督官として再渡英、僅々数年間に見習徒弟の佐双が全く一人前の造船官となっていることに師リードは驚嘆した。

帝国大学始・1886＝34歳：

*艦政局造船課長(大技監)となった。フランスに発注した巡洋艦畝傍が回航中消息を断ち、

国民之友始・1887＝35歳：

亡失と判定されたのを機として、横須賀でフランス造船官ベルタンの設計に一任していた日本軍艦の性能に強い懸念を抱き、海軍大臣西郷従道に強硬意見を出し、フランス式設計の巡洋艦秋津洲(初代)をイギリス式に根本変更し、みずからその設計にあたる。

初の対等条約1888＝36歳：

帝国憲法発布1889＝37歳：

引き続き横須賀鎮守府造船部長として、近藤基樹を部下とし、日清戦争までの艦艇建造の任にあたり、

日清戦争始・1894＝42歳：

日清戦争終・1895＝43歳：*日清戦争後は艦政本部第3部長(造船総監)として、

八幡製鉄始・1897＝45歳：

第1期・第2期海軍拡張計画による戦艦より水雷艇の建造(一部分は国内)の在外監督と国内建造の造船最高責任者となったが、

日露戦争始・1904＝52歳：

日露戦争中、世界最大戦艦の建造準備を含め装甲巡洋艦の国内建造の任にあたって、

日露戦争終・1905＝53歳：

*健康を害し病臥、造船総監(中将相当)在任中、床中で日本海海戦の捷報を聞き、安心して没した。